

(2020年10月掲載)

高崎駅周辺駐車場の動向

群馬経済研究所主席研究員 伊勢和広

～要約～

1. 本県の玄関口といえる高崎駅周辺では再開発が近年進んでおり、集客施設やマンションも増えて駅周辺地域の駐車場需要が高まっている可能性がある。本調査では高崎駅周辺における駐車場の現状と課題等について考察する。
2. 高崎市に届出のある駐車場の状況（2019年3月末現在）をみると、合計140カ所（うち供用中45カ所）、27,339台（うち供用中15,620台）となっており、5年前（14年3月末）の合計と比べると、届出台数ベースで39.2%、供用中台数ベースで23.1%増加している。近年の駐車場増加は民間主導によるものが大きいとみられる。
3. 群馬経済研究所が高崎駅周辺で駐車場運営を行う事業者に対して行ったヒアリングでは、現在の経営環境について、全先が「悪くはない」から「極めて良好」の範囲にあり、「悪い」という意見は聞かれなかった。高崎アリーナなどの大型集客施設の開業は駐車場需要にとってプラスであるという意見が多いが、当初の期待値の半分程度の需要に留まっているとの声も一部にはあった。
4. 駅周辺駐車場の需給バランスについては、時間貸駐車場では回答が「適正」から「過剰供給」の間に分かれた。一方、月極駐車場は、「不足」と「適正」に分かれている。
5. 駅周辺駐車場経営の課題としては「過当競争」、「低収益性」等が挙げられている。
6. 高崎駅周辺における周辺集客力アップに応じた一定規模の駐車能力維持は不可欠であるが、ヒアリング結果からみると、現状では「駐車場は不足していない」とする事業者が多かった。
7. 高崎駅周辺駐車場間の競争は激しいが、駐車場経営が既に多くの土地オーナーの土地活用方法の一つになっているのは事実である。土地オーナーは経営リスクをしっかりと理解した上で、駐車場経営に取り組む必要があるだろう。

キーワード：駐車場 パーキング 高崎 再開発 駅周辺